

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	堀川 祐里						

ゼミテーマ・タイトル

労働と社会保障を中心とした日本経済に関する卒業論文の作成

内容

このゼミでは国際社会を見渡すための視点を確立させるべく、日本経済に対する持論を確立させてほしいと思います。その際に、日本経済を理解するための切り口となるのは「労働問題」と「社会保障」です。自助原則の貫かれる資本主義社会において、私たちはどうやって生きていくのか、人生において労働ができないとき、社会にはいかなる仕組みが必要なのか、考えていきましょう。

4年後期では卒業論文を完成させることになりますが、学術論文の作法を身につけ、オリジナリティのある論文を完成させるため、履修生には精いっぱい努力してほしいと思います。夏休み明けには草稿を書き上げ、その後、2ヶ月間ほどをかけて、教員の添削に基づき推敲を行ってもらいます。11月末には完成稿を仕上げることを目標に卒論執筆を進めてください。

なお、論文完成後には、卒業論文発表会に向けて、研究内容についてのプレゼンテーション練習を行います。大学での学びの集大成として、自分の作品を限られた時間内に他の誰かに伝えることに挑戦してほしいと思います。

本科目には、毎回の予習・復習に、併せて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

各履修生の卒業論文のテーマに応じて、参考文献の紹介を行います。

ゼミの進め方

個人の研究を各自で進めてもらい、作業の進捗状況については適宜報告を行ってもらいます。学術論文に仕上げるために、文章の書き方や資料のまとめ方などについての個人指導を行います。また、各自の卒業論文の発表を行うべく、プレゼンテーションの方法についても学んでいきます。

成績評価基準

卒業論文作成に関する取り組みの姿勢 (30%)

卒業論文が学術論文としてのルールが守られ、オリジナリティのある内容であること (50%)

プレゼンテーションの作成 (20%)

※皆勤が原則ですので「出席」自体は評価の対象としないとともに、どのような理由の欠席についても咎めません。ただし、授業内での発言や議論など、ゼミに積極的に参加することが必須です。また、ゼミの運営に影響しますので、無断欠席は厳禁です。社会に出ていく準備段階として、大人のマナーも身につけてほしいと思います。

ゼミ選択上のアドバイス

卒業論文執筆には様々なスキルが詰め込まれています。たくさんの先行研究を渉猟する情報収集能力、知恵を仕入れるためのコミュニケーション能力、Word・Excelをはじめとした情報処理技術、研究対象を緻密に分析する根気、アウトプットするための文章力や表現力、最後までやり抜く持久力など、実に様々です。そのため、この営みは、社会に出て行く皆さんにとってとても重要な経験になるでしょう。仕事には、好きだけど苦手なこと、嫌いだけど得意なことなど、やってみないとわからないことが多いのですが、卒業論文の作成は自身をはかる試金石にもなるものだと思います。骨の折れる作業ですが、大学での学びの集大成と一緒に仕上げていきましょう。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年							
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年							
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年							
		4	ゼミ・卒研(後期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年							
卒業論文	臼井 陽一郎			【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×							
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×							
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×							
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×							
ゼミテーマ・タイトル														
卒業論文のための研究と論文の執筆														
内容														
ヨーロッパの政治と文化に関わる主題とする。														
使用予定テキスト														
授業中に適宜、指示する。														
ゼミの進め方														
ゼミでの報告と研究室での個人指導を組み合わせる。														
成績評価基準														
卒業論文のクオリティ 75% + 最終報告会の口頭試問 25%														
ゼミ選択上のアドバイス														
選んだテーマについて、この大学で一番詳しくなろう。そのテーマは卒業した後も考え続けるものにして欲しい。														
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施								
×						○								
その他														
2019年度の卒論で取り上げられた主題:サンテグジュペリ、ジョージオーウェル、カミュ、ド・ゴール、カレルチャペック、アントニガウディ、ミッテラン、ペタン、ブルム、カント。														

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1-3年次生】経営情報学部経営学科 【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	矢口 裕子			ゼミテーマ・タイトル			
テクスト講読によるジェンダー／文学／文化批評							
内容							
卒業論文は、四年間の大学生活の集大成となる重要なものである。そこで求められるものは、通常の講義やゼミのレポートとは質・量ともに格段の相違がある。							
各自の問題意識に基づいてテーマを設定し、充分な情報収集と先行研究分析を行い、オリジナルの批評的視点、論の展開を経て、説得力のある結論に至ることが必要である。また、そこに至るプロセスは厳密に学術的なものでなければならない。そうして初めて、学位授与の要件たる卒業論文が完成しうる。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらう。							
使用予定テキスト							
授業中に指示する。							
ゼミの進め方							
前半は論文執筆の方法を学び、後半はそれに基づいて論文指導を行う。							
成績評価基準							
論文執筆のプロセスも無論重要だが、最終的には完成された論文の形式・長さ・内容を総合的に判断する。論文指導は基本的に添削→推敲を個別に行う。							
ゼミ選択上のアドバイス							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施		
×					×		
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	佐藤 若菜						

ゼミテーマ・タイトル

中国地域研究／日中関係／台湾・香港／民族衣装・衣服・物質文化／親子・家族・社会関係／結婚

内容

本ゼミでは、自身の経験や身の回りで起きている出来事から研究テーマを抽出し、学術的な文章として表現することを目指す。まず、レポートや論文の書き方を指導する。論文の閲覧と要約を通して、論文とは何かについて理解することを促す。加えて、卒業論文の要となる資料収集についても指導を行う。特に、日本語だけでなく、英語ないし中国語の書籍・論文を読むことを必須とする。各自が設定したテーマに関して、日本とそれ以外の国における研究分析の違いについて考察する力を身につけることを目標とする。

3年次後期からは、自身の卒業論文のテーマを決定し、そのテーマに関連した文献を読み、発表する。4年ゼミでは卒業論文の進捗状況を発表し、執筆した草稿を定期的に提出する。3年次・4年次のゼミにおいては、全ての学生が発表者に対する質問をし、ディスカッションを行う。

＜これまで指導した卒業論文のテーマ＞

○中国・台湾・香港に関するテーマ

- ・現代中国における若者の化粧行動：「90後」世代に着目して
- ・社会的迷惑行為の日中比較：中国における迷惑行為基準への視角から
- ・日中国際児の言語選択：母親による言語教育に着目して
- ・日本と中国のテレビ・コマーシャルがうつしだす文化的差異： 視聴者との共在状況に着目して
- ・台湾映画のなかの日本：本省人監督が描く日本統治時代

○母娘関係、家族、結婚に関するテーマ

- ・中国の女子大学生と親との関係：進路の選択に着目して
- ・現代日本における友人化した母娘関係：未婚期から既婚期への変化に着目して
- ・日本における児童ソーシャルワーカーの役割と位置づけ：イギリスとの比較から
- ・日本における人とペットの関係性：イヌに着目して
- ・日本におけるペットの死をめぐる議論：ペットロスに着目して
- ・子どもの学力と貧困：秋田県と新潟県に着目して
- ・日本における現代女性の結婚観：晩婚化とその対策
- ・同性婚をめぐる議論がうつしだす日本社会：1991-2019年の朝日新聞の記事938件を参考して
- その他：民族衣装・人類学理論、民族誌、文化など
- ・日本のフォークロア・ファンションにおける循環性
- ・レヴィニストロースの構造主義：神話研究に着目して
- ・暴走族に付与されたストーリー：漫画・新聞・民族誌に着目して
- ・被災地における音楽空間の創出：「癒し」の視点から
- ・日本における映画離れの現状と解決策
- ・韓国における英語教育：学歴競争社会と英語熱の関連性に着目して
- ・アメリカにおける肥満問題と対策：日本との比較から
- ・地産地消と食育：新潟県に着目して

毎回の予習・復習として、計4時間相当の課題を出す。ゼミでは、各学生がその成果を発表し、皆で議論する。

使用予定テキスト

戸田山和久. 2012.『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版社.

その他、各学生の関心に沿って、適宜指示する。

ゼミの進め方

各学生がテキスト・論文・書籍を読んで作成したレジュメをもとにディスカッションを行う。

成績評価基準

レポート、発表内容、議論における発言の頻度と内容、出席状況等により総合的に評価する。欠席は原則的に認めない。

ゼミ選択上のアドバイス

学生の主体性を尊重し、中国地域研究や日中関係にかかる幅広い分野にわたる関心に対応する。中国大陸（中国国家図書館、民族文化宮等）、台湾（国立台湾図書館、中央研究院等）、香港（香港中文大学等）での資料収集と現地調査（北京、上海、広州、貴州、雲南、台湾、香港など）の経験を踏まえ、多様なアプローチを紹介しながら卒業論文の指導を行う。また、民族衣装・衣服をはじめとした物質文化や、親子や家族を含む社会関係に関するテーマに対しても指導可能である。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

その他

特になし

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	越智 敏夫						
ゼミテーマ・タイトル							

政治思想と現代社会

あるいは「自分の人生について考えることは他人の幸福について考えることになるのか」

内容

卒論指導では各学生がテーマを見つけてそれに取り組みます。しかしこのゼミナールではそれらのテーマに直接関連したことを全員で議論することはありません。各自のテーマについては「政治」と「思想」と「アメリカ」に関連したことであれば広く指導するつもりでいます。しかしあはっきりいって、現代社会の事象でこの三つに関連しないものは存在しません。なので、およそみなさんが関心をもったことについては指導します。

ゼミナールでは現代の政治思想家の論文をとりあげ、「ものを考えるということはどういうことか」について全員で深く議論したいと思います。それは人間らしく生きるということはどういうことかを問うことでもあります。すべての人間は阿呆のふりをしているうちに本当の阿呆になってしまいます。しかしその危険性を少しでも低くするにはどうしたらいいのか。また、なぜここまで現代社会は味気ないのか。どんな理由でこうなってしまったのか。さらには、どうせ社会の歯車として生きしていくのなら少しでも存在意義を自分で見出せる歯車になるにはどうしたらいいのか。そういう問題について考えたいと思います。

もし「今社会はすばらしい」とか「自分は歯車じゃない」と思っている人がいたら、それは社会に関する理解が足りない、あるいはたんに頭が悪いということです。ゼミナールという学習には絶対的に不向きですから何か別の道を歩まれたら良いと思います。

ゼミナールの具体的な内容としては現代社会について同時代的に考えている人々の論文を読んでいきます。これまでの越智ゼミでは、マックス・ヴェーバー、ヴァルター・ベンヤミン、ハンナ・アレント、丸山眞男、ミッセル・フーコーという5人の政治思想家に限定していましたが、思うところあって、今年度は範囲を広げて他の論者のものも読むことにしました。誰の論文を読むかはゼミ生と相談しながら決めます。

しかし一回読んだだけで理解できるようなものを読むことは絶対にないので、ゼミ前の熟読が必要になりますし、ゼミでの議論も複雑なものになると思います。自分の意見を自分から発言するような積極的な学生の参加を期待します。

こうしたゼミナールが各自の卒業論文の問い合わせ結びつかのか心配する人もいるかもしれません。しかしこれらの問い合わせ考えることは必ず論文を書くうえで役立つことです。もっと正確に言えば、このような問い合わせを欠いた問題設定によって書かれた論文に価値はありません。価値のある論文を書いてもらいたいと思っています。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

たとえば、下記。具体的には学生と相談します。

ヴェーバー『職業としての学問』	岩波文庫
ヴェーバー『職業としての政治』	岩波文庫
ベンヤミン『複製技術時代の芸術』	晶文社
ベンヤミン『ドイツ悲劇の根源』	講談社文芸文庫
アレント『全体主義の起源』	みすず書房
アレント『暴力について』	みすず書房
丸山眞男『現代政治の思想と行動』	未来社
丸山眞男『日本の思想』	岩波新書
フーコー『知への意志 性の歴史』	新潮社
フーコー『監獄の誕生 監視と処罰』	新潮社

ゼミの進め方

テキストを全員で講読します。全体の進行を担当する「司会」、テキスト内容の要旨を報告する「レポーター」、その内容を批判する「コメンター」という3者を中心に議論を進めます。ゼミ生はこのふたつの役割を順番に担当します。各テキストの読了後にはそのテーマについてのレポートを書いてもらいます。

成績評価基準

出席を重視します。各セメスター2回までは欠席しても単位を出します。3回以上欠席すると単位は出ません。欠席の理由は問いません。バイトでも風邪でも、欠席は欠席です。

ゼミ選択上のアドバイス

自分をだまさないことです。大学生活を言い訳の多い4年間にしてしまうと、それは癖になります。その後の人生でも同じ状況が続く危険性は高いでしょう。ですから本当は遊びたいのにきついゼミを選んだりすれば、教師も学生もお互い不幸になるのは明らかです。そしてこのゼミはきついゼミです。そのところをよくよく考えてください。勉強したい人にとっては意味のあるゼミにしたいと考えています。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

その他

合宿は夏期休業中に3・4年合同でおこないます。県内を予定しています。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1-3年次生】経営情報学部経営学科 【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	熊谷 卓						
ゼミテーマ・タイトル							
卒業論文をしっかり書く。水準に達しない場合、単位を出しません。							
内容							
卒業論文の執筆を指導します。 毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。 水準に達しない場合、単位を出しません。							
使用予定テキスト							
別途指示。							
ゼミの進め方							
別途指示。							
成績評価基準							
論文に値する基準となっているかどうか。							
ゼミ選択上のアドバイス							
卒論執筆は孤独で大変な作業です。 しかし、それを乗り越えることで、大きな成果を得ることができるはずです。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施	
×						必要な場合、実施することあります。	
その他							

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × × ×	必修 必修 必修 × × × ×	4年 4年 4年 × × × ×
授業科目	担当教員						
卒業論文	小山田 紀子	4	ゼミ・卒研(後期)				
				ゼミテーマ・タイトル			

グローバル化と地域社会

内容

学生が3年次後半に決めた個別研究テーマに従って文献資料収集や現地調査、インタビューなどを進める。その際、先輩たちの卒業論文集を参考にしたり話を聞いたりする。テーマの決定と資料収集に当たっては教員と相談しながら進めていく。研究の進み具合によって順番に研究報告をし、他の学生からの質問や議論の中から示唆を得て研究をさらに豊かなものになるよう進めていく。最終的には卒論中間発表会の成果を踏まえて、教員の個別指導を受けながら卒論を完成させる。

今年度は、フランスの移民問題、中東の地域研究、日本の外国人労働者問題などのテーマが取り上げられる予定である。

●これまでの卒業研究のテーマ（小山田ゼミで取り上げられたテーマ）

- 「エジプト革命—ナセルの政治—」
- 「ドイツにおけるトルコ系移民—国民国家への統合をめぐって—」
- 「シオニズム運動の思想とその時代背景」
- 「イスラエル・パレスチナ問題と中東和平の行くえ—イスラエル側からの視点—」
- 「ケマル革命—トルコ近代国民国家形成に関する考察—」
- 「石油開発の歴史と環境問題—中東石油を中心—」など
- 「クルド人問題—中東の少数民族—」
- 「日本における無国籍者—日本の国籍法に関する考察—」
- 「チュニジア・ジャスミン革命—その歴史的要因と『アラブの春』の行方—」
- 「カダフィの生涯—リビア革命からアラブの春まで」
- 「アルジェリア独立戦争—フランス植民地支配の歴史と戦争の記憶—」
- 「フランスの教育問題—教育優先地域（ZEP）を中心に—」
- 「フランスの移民政策とムスリム系移民の現状—2005年の郊外暴動を中心に—」
- 「フランス移民第二世代における社会的統合—共生社会に向けて—」
- 「現代フランスの子育て支援—女性の社会進出と家族政策—」
- 「パリ・コレクションの歴史—世界ファッショへの影響—」
- 「フランス凱旋門賞と日本馬の挑戦」
- 「在日ムスリムの生活と文化—新潟アンヌールモスクの事例を中心に」など

使用予定テキスト

各学生が個別研究のテーマで、参考文献を決めていく。

ゼミの進め方

各学生の個別研究を進め、ゼミでは順番に中間報告をして議論し、教員の指導を受ける。

卒論中間発表会の成果を踏まえて期日までに卒論を完成させる。

その成果は合同ゼミの卒論発表会で発表される。

成績評価基準

卒業論文の内容の成果と、そこに至るプロセスも含めて評価する。また、完成後の卒論発表会での発表と質疑への対応も評価に加味する。

ゼミ選択上のアドバイス

3年次と同じ。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

その他

卒論テーマに関する調査や現地視察などの成果を卒論作成のための準備として、プリントにまとめたりやパワーポイントなどの使用によって発表してもらう。それは卒論中間発表会や卒論発表会での準備作業になる。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
		4	ゼミ・卒研(後期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
卒業論文	山田 裕史			【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
「国際協力」に関する卒業論文の作成							
内容							
「国際協力」に関する研究テーマを各自が設定し、卒業論文を作成します。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
卒業論文の執筆に際して以下のテキストを参照するほか、各自の研究テーマに応じた文献を紹介します。							
川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術：プロの学術論文から卒論まで』勁草書房、2010年							
戸田山和久『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2012年							
ゼミの進め方							
各自の研究発表と討論、論文草稿へのコメントを中心に進めます。							
成績評価基準							
論文の構成や内容だけでなく、論文が学術的技法に則って執筆されているか、文章表現は適切かといった点も含め、総合的に評価します。フィードバックとして、提出された論文にコメントを付して返却します。							
ゼミ選択上のアドバイス							
「国際協力」に関する知見を深めることはもちろん、「学術論文の書き方もしっかり身に付けたい」という学生の履修を歓迎します。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性					アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施	
×							○
その他							

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
		4	ゼミ・卒研(後期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
卒業論文	佐々木 寛			【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

卒業論文指導

内容

卒論のテーマは、指導教員との対話、ゼミの仲間とのディスカッションやワークショップなどを通じて、個々人の内に眠っている問題意識を、時間をかけて浮かび上がらせます。

以下、参考までに過去の卒業論文タイトル一例です（2013年度）。

- ◎ 「かわいい」論——「やさしさ」の発見
- ◎ 日本のアジア主義と朝鮮——宮崎滔天を中心
- ◎ シュタイナー思想の可能性——新しい人間から新しい社会へ
- ◎ 現代人の<恋愛>のゆくえ
- ◎ 「サバルタン」としての原発労働者
- ◎ パウロ・フレイレ——人間解放の教育学
- ◎ 「ニューヨーカー」とは何か——コスマポリタンのアイデンティティ
- ◎ ホスピタリティ——おもてなしの社会史
- ◎ 日本はナマコの眼からよく見える——鶴見良行 再読
- ◎ ナチスのプロパガンダ——大衆をつかむ技術について
- ◎ アメリカの福音派——その原理主義と社会への影響
- ◎ ヤマモト・ヨウジ論——闘争としてのデザイン
- ◎ フィンランドの子育て支援から学ぶ——地方自治体の役割と課題

以下は、2017年度。

- 「人間が人間らしく生きるために——エーリッヒ・フロムにおける自由と希望」
- 「ミヒヤエル・エンデ『モモ』を読む——遊び・時間・自由」
- 「雨の降る時こそ、晴れ渡った顔つきを——アラン『幸福論』再読」
- 「就職活動における「内面」評価の政治学」
- 「ヴィクトール・フランクルの思想——現代を生き延びるために」
- 「“文明”を考える——宇宙人類学、グランド・ヒストリー、未来学の視点から」
- 「2つの流行——ファッショントレンドとは何か」
- 「『自分らしく生きる』とはどういうことか——チエ・ゲバラの生き方から学ぶ」
- 「“希望”という名の言語、“エスペラント”とその日本における影響——柳田国男・宮沢賢治を中心に」

このように、あらかじめテーマは限定せず、自分が一生取り組むテーマを探して、自分のための卒業論文を書きます。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

各学生によって異なります。

ゼミの進め方

基本的に仲間同士の報告を通じて、お互いに内容を高め合います。指導教員との1対1の指導も行います。

成績評価基準

論文に取り組む姿勢や努力、加えて、論文の完成度によります。

ゼミ選択上のアドバイス

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○
その他		

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	澤口 晋一						

ゼミテーマ・タイトル

しっかり調査してデータを集め、分析して自分で考え、文章を練り、作文する。

内容

● 指導できる分野と範囲

私が3年ゼミ～卒業論文として指導できる分野は、地理学（地球科学を含めた自然地理学全般と人文地理学の特定分野）および地球・地域環境問題、資源・エネルギーに関する分野です（詳しくは以下を参照のこと）。

・地理学分野

自然地理学：地形学（高山・山岳、段丘、変動（活断層）地形、沖積平野等）

第四紀学（古環境変動）

気候学（小気候・微気候、気候景観、ヒートアイランド等）

地生態学・景観生態学（植生、自然景観保全、ビオトープ）

人文地理学：土地利用（景観変遷）、食糧問題、地域研究、観光地理学、地誌学

・ 地球環境問題分野：地球温暖化問題、酸性雨、砂漠化、生物多様性 等

・ 地域環境問題分野：地域環境保全、ゴミ問題、森林保全 等

・ 資源・エネルギー分野：資源枯渇、自然エネルギー、原子力発電に関する問題（と核問題）等

● 指導方針

卒業論文といえどもそれは研究論文にはかわりありません。研究論文であるからには、どんな些細なことでもその分野に何か新しい知識をもたらすものでなければなりません。これができる限り実現させるため、ゼミでは、『各自が決めたテーマに基づいて、自分の手と足で資料やデータを集め、それを分析して得られた結果を解釈し考察すること』（テーマによってはレビュー研究も認めます）を基本原則としています。したがって、既存の文献資料の文章を引用と称して大量に“借用”して作成することは認めていません。とはいっても、たがが1～2年の勉強で日進月歩の研究に新たな知識を付け加えるなどということはほぼ困難です。努力はしたが結局うまくいかなかったことのほうが圧倒的に多いのが現実です。しかしその努力は決して無駄ではありません。新しい知識の獲得を目指して行った努力の過程にこそ、実は本当の意味があります。私はそこをみます。そこに最大の評価ポイントを置きます。完成度の高さや文字数などは問題にしません。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

各自の卒業論文のテーマに即した論文を読みます。

ゼミの進め方

● 指導スケジュール

3年 前期：文献検索等を通じ卒論で取り組みたい対象や分野を決定し、関係分野の概説書購読。

夏休み：取り組む対象・分野に応じて各自に課題を提示する。

後期：前期で決めた対象・分野から卒論として取り組むテーマを具体的に絞り込み、それについての勉強を始める。

最初は基本的知識を得るために概説書的な書籍の購読を繰り返す。後半以降は

様子をみて、可能ならば論文読みにもチャレンジし、調査方法についての検討もおこなう。

春休み：文献・資料収集、論文読み、フィールド調査の必要なテーマならその調査も。

4年 前期：関係する論文読みを通じ基礎知識をさらに固める（関係論文を最低5本は読みます）。同時に資料・データ収集、必要ならフィールド調査、さらに資料・データ分析。

夏休み：論文読み、資料・データ収集、必要ならフィールド調査、さらに資料・データ分析を自主的に行う。

後期：論文執筆（完成までに通常10回程度の原稿添削があります）

成績評価基準

卒論への取り組み姿勢、成果等を総合的に評価し、判断する。

ゼミ選択上のアドバイス

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	小林 伊織						
ゼミテーマ・タイトル							
Thesis writing on themes related to World Englishes, English as a Lingua Franca, and/or sociolinguistics							
内容							
<p>You will complete an undergraduate thesis on a theme related World English, English as a Lingua Franca (ELF) and/or sociolinguistics. You will conduct data gathering and reflect the outcome of its analysis in your thesis. The data gathering can take a form of questionnaire surveys, interviews, etc. You may conduct your data gathering overseas. You will use the APA 6th style for the manuscript formatting and referencing. You will be given an assignment which should take you about four hours as preparation and revision for each session.</p>							
使用予定テキスト							
<p>American Psychological Association (2010). Publication manual of the American Psychological Association sixth edition. Washington DC: American Psychological Association.</p>							
ゼミの進め方							
<p>You will prepare for and participate in an interim report and oral defense (final presentation). You will comment on your peer's presentations and drafts.</p>							
成績評価基準							
<p>Your thesis will be evaluated based on the validity of your research questions and the answers to them. Also, a great emphasis will be paid on whether you conformed strictly to the APA 6th style. Feedbacks will be given both orally and in writing toward every submitted draft and presentation.</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>Those taking Peter Seminars for Fourth Year Students should also enroll in this course.</p>							
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施		
×					<input checked="" type="radio"/>		
その他							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1-3年次生】経営情報学部経営学科 【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員						
卒業論文	アレクサンドル プラーソル	4	ゼミ・卒研(後期)				

ゼミテーマ・タイトル

ゼミで下記のテーマを中心として授業を進める。

- ①ロシア社会・文化の歴史と現代 ②日露文化比較研究

内容

生徒にゼミテーマに沿うっての分野を選んでもらって、信頼できる参考文献の選択、研究方法、アプローチ、卒業論文の書き方等の指導を行う。毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

テキストは利用しない。

ゼミの進め方

ゼミ生数や、それぞれの研究テーマや、ロシア語学力等によって毎年相談のうえに決定する。

成績評価基準

出席率、発表や発言の質、他人の発表論争の参加によって成績を評価する。

ゼミ選択上のアドバイス

早めに興味のある研究テーマを選んで、毎回発表を行って、卒論研究を徹底的に進めることが重要である。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
○ 民間会社での通訳・翻訳・論文査読の経験を生かす		○

その他

研究の目標は次の通りである。

グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な目差しをもって向き合う実践的な態度を獲得し、国境を越えた個別具体的な問題への認識を深める国際教養及び研究手法を体得していること。

異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化状況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につけていくこと。

日本社会にあって上記学術的素養を日々の生活に生かす方途をたえず模索するつよい意欲をもち、これを具体化していくための社会関係構築能力を獲得していること。

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1-3年次生】経営情報学部経営学科 【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	申 銀珠						

ゼミテーマ・タイトル

韓国・朝鮮と日本～「今」と「これから」を考える

その他

内容

「国際研究ゼミナール3, 4, 5」で学習した内容を踏まえながら日本と韓国・朝鮮関連の様々なテーマを勉強し、具体的な自分の研究テーマについて「国際研究ゼミナール6」で発表してもらいます。「国際研究ゼミナール」の時間の他に、個別に議論、意見交換、指導等を行います。卒業論文のテーマは遅くとも6月までには決めてほしい。

申ゼミの主な卒論タイトルを紹介します。参考にしてください。

1. 環日本海地域の発展と北朝鮮の重要性
2. 韓国の一回用品使用規制からみるエコの取り組み
3. ハングルの世界
4. パンソリから見る映画『風の丘を越えて』の世界
5. 現代韓国における結婚事情
6. 国際社会から孤立する北朝鮮
7. 「朝鮮戦争」を描いた韓国映画の変化
8. 韓流ブームが巻き起こした現象ー冬ソナはなぜ日本で流行したのかー
9. サムソン電子の歩みー「新経営」の実態と、今後の課題ー
10. 韓国の少子化ー社会問題からみる韓国
11. 東京一極集中化と地方過疎化の現状ー改善の糸口を考えるー
12. 韓国経済と財閥ー止まらない格差拡大と韓国を出していく若者ー
13. 韓国の多文化共生社会への取り組み
14. ヘイトスピーチ解消法ー立法から見える日本の現状ー
15. 韓国人の美容意識

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

ゼミ生の研究テーマに応じて参考文献等を紹介し関連分野の理解を深めていくようにしたい

ゼミの進め方

卒論テーマに関する個人発表。

パワーポイント使用。

個人指導による内容の検討。

成績評価基準

論文の構成、論理性と独創性を重視

プレゼンテーション能力を重視

ゼミ選択上のアドバイス

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

その他

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	瀬戸 裕之			ゼミテーマ・タイトル			
「東南アジア地域研究」に関する卒業論文執筆							
内容							
本ゼミの卒業論文執筆では、東南アジアの歴史、政治、経済、国際関係、社会変容に関する分野で、学生が自ら卒業論文のテーマを選び、それに基づいて学生が本や資料を調べ、卒業論文を執筆します。							
学生による資料収集、構想報告、中間報告、論文の執筆に際しては、学生がゼミで内容を報告し、ゼミに所属する学生たちとディスカッションをする。また、教員は、学生の資料収集、論文構成、執筆に際して、学生にアドバイスを行い、論文の完成をサポートする。							
毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
学生の卒業論文のテーマに従って、必要な本や資料をアドバイスをします。							
ゼミの進め方							
履修者が、自らの卒業論文のテーマに従って本や資料を読み、卒業論文を執筆します。調べたこと、執筆した部分についてゼミの時間に報告してもらいます。報告者以外の学生との間で質疑応答を行い、ディスカッションをします。教員は、学生が論文を完成させるために必要な作業についてアドバイスします。							
成績評価基準							
卒業論文のテーマ、構成および内容(70%)、口述試験の準備および発表(30%)、に基づいて成績を出します。学生が提出した中間報告に対してコメントを付してフィードバックします。							
ゼミ選択上のアドバイス							
卒業論文は、大学生活の総仕上げの作業です。大変な作業ですが、途中であきらめずに頑張りましょう。							
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施		
×							
その他							

【授】: 授業内容 【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	必修	4年
		4	ゼミ・卒研(後期)	【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	必修	4年
卒業論文	吉澤 文寿			【1・3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

ゼミテーマ・タイトル

オリジナリティを目指した卒業論文執筆

内容

私の専門は朝鮮現代史、日朝関係史である。社会学ではなく、歴史学を専門としている。植民地支配をめぐる日本と朝鮮（この場合の朝鮮とは、現在の大韓民国および朝鮮民主共和国に由来する民族などの総称である）について研究してきた。また、米国での在外研究を通して、米国を視野に入れた比較研究などにも関心がある。個人研究は各人の関心をもとにして設定してもよいが、上記のことを一応留意してほしい。

使用予定テキスト

4年次後期のゼミでは、特定のテキストはないが、以下の文献を貸与する。

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社、2009年

ゼミの進め方

学生各人が前学期までに進めた研究内容を深め、さらなる文献や史料による補完を進めつつ、卒業論文の内容を報告する。私からも参考になる資料や文献を配布するなど、理解を助ける補助は行うつもりである。

10月～11月の中間発表会、12月の論文提出、そして1月の最終発表会が目標となる。

成績評価基準

中間発表会、提出された卒業論文、そして最終発表会で評価する。

ゼミ選択上のアドバイス

もし、このゼミから初めて参加する者は、事前に卒業研究のテーマを設定し、先行研究をある程度整理するとともに、とくに夏季休暇終了までに調査研究しておくことが望ましい。このゼミに参加することが決まった段階で、私に連絡すれば対応する。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

その他

予習復習に4時間。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
310013	X-21-B-3-310013			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × ×	必修 必修 必修 × × ×	4年 4年 4年 × × ×
授業科目	担当教員	4	ゼミ・卒研(後期)				
卒業論文	鈴木 佑也						

ゼミテーマ・タイトル

ロシア・ソ連地域研究、アート、建築、都市計画、都市文化、芸術政策、全体主義芸術

内容

国家や政府、または「上からの指示」に従って生じた文化現象は、自由意志または自然発生によって生じた文化現象と比べた場合、価値のあるものなのかな。無価値または価値が低いとするのであれば、その文化現象に対する評価基準は何であるか。

一方で高い価値が与えられるのであれば、単に国家や政府の方針、政治や経済をめぐる状況だけで評価を与えてよいものなのかな。こうしたことをこのゼミでは考察し、議論していく。

ゼミでは自らが関心のある文化現象を研究テーマとして掲げ、そのテーマや関連事象を分析し、学術論文を完成させることが目的となる。レポートや論文作成指導はもちろんだが、テーマとする文化現象をどのような観点から論じるか、また自らのテーマを論理的かつ説得性を持って他人に向けてどのように説明するかという指導も積極的に行う。分析や調査の際に、ロシア語および英語の学術論文や文献、資料などを読むことがこのゼミでは求められる。講師の研究領域はロシア・ソ連芸術史および建築史であり、特に1930-50年代のいわゆる「全体主義」政治体制での芸術および建築が専門である。そのため、このゼミで扱う対象となるのは以下の通りである：

地域：ロシア・ソ連地域またはヨーロッパの旧社会主义圏

分野：アート、建築、都市文化、都市計画、芸術政策、表象文化

時代：20世紀から21世紀

ただし、上記の対象と近いものに関心があれば個別に相談してもらいたい。

流れとしては3年次前期には論文の書き方や資料の集め方などを学習し、このゼミの共通テーマとなる文献（「使用予定テキスト」参照）を講読する。3年次後期ではそれぞれの研究テーマを決定し、そのテーマに関する参考文献を各自で講読し、問題点や関心あるテーマに対する自らの問題意識やそれを取り巻く状況を報告または発表し、議論する。その中で自らのテーマを絞り込む。また可能であれば、論文を書くための大まかな方針を決める。4年次前期では取り組むテーマを決定し、参考関連書籍及び先行研究（最低でも関連書籍は5冊）を読みつつ、取り組むテーマの基礎知識を深め、資料や文献収集を行い、論文の構成をまとめながら論文執筆に備える。4年次後期は論文執筆が中心となる。原稿添削や様式のチェックなども行う関係から12月までには初稿を完成させておくことが望ましい。

毎回の予習・復習に、合わせて4時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

使用予定テキスト

参加者に応じて変更する場合があるが、現時点では以下の通り。初回のオリエンテーションで参加者各自の興味あるテーマを聞きながらその年に購読するテキストを決定したい。

I. ゴロムシュトク（貝澤哉訳）『全体主義芸術』水声社、2007年（共通テーマ用テキスト）

戸田山和久『新版 論文の教室：レポートから卒論まで』NHK出版、2012（論文作成用テキスト）

ゼミの進め方

講師によるレクチャー（論文の書き方、ゼミ共通テーマに関する講義）とゼミ参加者によるゼミで与えられたテーマの報告と発表、輪読から構成される。報告などの際は参加者が司会、報告、報告に対するコメントをその都度分担し、参加者の自主性が求められる。

成績評価基準

ゼミは通常の授業と異なり、一種のチームを組んで自らの仕事をやり遂げることが重要となる。そのため、ゼミへの貢献と自らの研究テーマに対する積極的な取り組み、そして課題となるレポート及び論文への完成度が評価対象となり、それらを総合的に評価する。欠席は原則として認めない。

ゼミ選択上のアドバイス

日常生活での些細なものに対して「なぜ」と思ったり「面白い」と感じるのであれば、それは既に研究への扉が開かれているのである。こうした興味や関心を失わず、それらの関連事象への知的アンテナを張り巡らせることができるのであれば、このゼミを選択していただきたい。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習